

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 久保ねね
所属 (School) 現代システム科学域マネジメント学類
学年 (Grade) 1 年

留学先 (Name of overseas institution)
University of Malaya
留学期間 (study abroad period)
2019/8/18~2019/9/8

記入日 (Date) 2019/9/23

留学レポート Study Abroad Report

～はじめに～

大阪府立大学からマラヤ大学での3週間のプログラムに参加しました。寮では私を含む3人の日本人に対し、1人のローカルバディと呼ばれるマラヤ大学の学生が同室でした。マラヤ大学は世界大学ランキング100に入る大学であり、授業は英語で行われているため、バディや教授方とは英語でコミュニケーションが取れます。一日の流れとしては、バスで大学へ行き朝食をとった後、1クラス20人ほどの教室で英語の授業を2コマ受けます。昼食をはさみ、伝統舞踊や英語での演劇などの授業を1コマ受け、アフタヌーン・ティーの時間でプログラムは終了します。その後はそれぞれのバディと夕食を食べに行きます。週末にもクアラルンプール観光、マラッカ観光、ホームステイとすべての日にプログラムが組まれています。



～多民族国家～

マレーシアは多民族国家で、マレー系、中華系、インド系などの人がいます。私のローカルバディははっきりと自分の意見を言うしっかり者で、明るくて常に楽しそうにしています。異性とも親しくしていました。おしゃれも好きで、よくつけていた大きめの耳飾りも少し短い目の黒髪に映えていました。ですが、彼女はムスリムです。私はイスラム教は宗教上の決まりが細かく、異性とのかかわりも厳しく制限されていて、女性は皆ヒジャブを身に着けているものだと思っていました。実際はどこまで厳しく守るのかは人によるそうです。マレー系のバディも多くいましたが、ヒジャブをつけている人と半分ぐらいだったように思います。私のバディもヒジャブこそつけていませんが外出はズボンかロングのスカートで、部屋ではくつろぎやすい服を着ていましたが、写真を撮る際には足は映らないようにしていました。

～授業～

このプログラムでは午前中に2コマ、午後に1コマまたはフィールドトリップがあります。週に1度のマレーシアの文化や多様性についての授業を除き、午前中は3クラスに分かれての英語の授業が行われます。1クラス20人程度の日本人にローカルバディが交代で3、4人ずつ授業に参加してくれます。授業はもちろん英語で行われるため、英語で英語を学ぶことになりますが、日本語ではわかりにくかったニュアンスや使い分けがはっきりすることもありました。ただ話を聞いてノートをとるといった授業はなく、ちょっとしたゲームを用いたり、グループワークを行ったり、クラス全体での授業でもイスを円にして座ったりするため、常に参加型の授業が行われていました。午後のプログラムはアクティビティに近く、フィールドトリップでは観光にでかけたり、closing ceremony で発表する伝統舞踊や楽器に挑戦したり、現地の小学校・中学校との文化交流の際に発表する英語での演劇に取り組んだりしました。

午前の授業の教授の方々がとても親しみやすく、食事や週末のプログラムに参加してくださった際にお話することができました。このプログラムでは英語を教えてくださいますが、本来の専門は別にあるため、興味のある分野が被っている参加者は専門的なことについても、話に花を咲かせていました。



↑ 休み時間大学内の学食にて。授業が長い分休憩時間も長い。

～放課後～

大学での授業で疲れ切ってしまうため、昼寝をはさんで7時30分ごろから夕食へ出かけるのが私のバディグループの日課になっていました。放課後すぐに動いてショッピングモールなどに出かけたりもしましたが、通勤ラッシュの時間に当たってしまうらしく、大渋滞に巻き込まれてしまうこともありました。出かける先はバディによって異なったようですが、行ってみたい！食べてみたい！と伝えたところには快く連れて行ってくれました。バディたちで約束して、数グループで合体して大人数で食事に行くことも多かったです。皆が帰寮し始めると少しずつ寮の敷地内のコートでバドミントンやバレーボールで遊んだり、部屋に集まってマレーシアのお菓子を試してみたりと自由に思い思いの時間を過ごしていました。私自身は複数人で外で遊ぶか、話をすることが多く、この時間にローカルバディだけでなく、他大学のプログラム参加者とも仲良くなることができました。



～食～

朝食、昼食、アフタヌーンティーはプログラムに含まれていたため、大学内で食べました。夕食は各自ですが、外食文化が根付いているため基本的にはバディと出かけました。多様な文化が入り交じっているため、中華やカレーのようなものもありますが、全体的に料理は辛くて飲み物やスイーツは甘いです。ナイフは基本的にはなく、スプーンとフォークでスプーンをナイフのように使って切り分け、スープも含むすべての料理をスプーンに少しずつ載せて一緒に食べます。大学での昼食では宗教に配慮してグリル、カレー、フライなどと姿を変えて毎日鶏肉がメインで登場します。イタリアンを食べに行った際に頼んだボロネーゼの肉も100パーセント牛で不思議な感じがしました。夕食は様々な系統のレストランに連れて行ってくれましたが、前述のとおり私のローカルバディはムスリムで豚肉は食べておらず、中華系の夜市に連れて行ってもらった際に久々に豚肉を食べておいしさに感動しました。



←左から
朝食
昼食、
アフタヌーンティー



～おわりに～

最後にこの夏で私が得たものについて書きます。一つ目は英語力です。今回の留学で英語が劇的に伸びたのかというそうではないと思います。しかし、今まで紙の上で知っているだけだった英語を実際に使えるようになりました。伝えようとする何度でも聞き返してわかってくれようとする環境の中で、英語で抵抗なく会話できるようになりました。

2つ目は良い刺激を受けたという点です。ローカルバディたちと普段はたわいのない会話をしていましたが、ふとした時に国際問題や自身の将来などについても話することがありました。ローカルバディを務めてくれたマラヤ大学の学生は世界に興味をもち、留学や海外プログラムに参加し、大学生活においてもそれぞれが本当に多くの経験をしていました。そして、授業外の放課後のフィールドトリップや週末のアクティビティの計画、実行はすべてローカルバディたちが行っていました。ローカルバディたちといろいろな話をするのができ、また、真剣にこのプログラムをいものにしようと動いてくれている姿を間近に見ることができ、こんな風になりたい！様々な経験がしたい！と新たな目標を持つことができました。